柳導

全

911.4
ヤ
全

口傳性

揚州西湖
竹田

柳樽今年人性の本歌ト
いへるハ文人偏ニ十一の
北州なれは折々句作
三ツとあつめし雑集学の
三ツ辞え人へ偏されし人多附子
六字の花笑はしめ七七五の

[illegible]

[illegible]

十三夜出しかくいぬくらべ　下〆

星月夜はきらす奴をへぬのいくり　常住

ゆかしさつらへ書きな井戸の夕れし　冨松

我ゟ門へ侍て居人にゝ子し　やゝき

在中は膝をしせらつて女房　雨柳

女郎子を人形ふさら七ッ折　縁花

白い歯をみせ奴は雲る出し居　雨且

子を捨る藪を蔵る響　乏松

二番目をも嬉の返て出　文枝

柳六十三

生ぬ気も後くはの出入首出ぬ　有幸

座續くちらつふすし出れ姪　綾九

庫にしかれし泥ゝくを行て姪　之松

奥さらは座しなはぬは喉へ出る　五連

幸くなれ合八百あと喚気　笠下

承繋でくを見と分後坊主お　柳雨

信な井戸をつきふ行後らぬ　器水

わしとの寺前の縁をひく呼ぬ　邱々

判ゝ来ゟ丸小判母無え　百幸

六義のしらやうつりし舟ハえて　梅香
親におもしろく手ハおもわり　梅下
後人に後く様やちんに後くもいとを　倭丸
済るのしんになれ玉し　雨旦
橋の玉水いく針ある　山苑
揮うる書ありして川乃へ　一河
御門守女と候えして女思ひ　香貞
下女ハ紅竈かしりと滞しつ　鄰紅
村芝居草ぼ山よとせ羽アえ　柳雨

折六十一ノ三

まかしても玄れなまめいは意たえし　倭丸
橋渡けの文婦ろうれぞんへの完　雨柳
　綿香評
湯大ハ今々し深武の事れを焚　雨旦
虎さらし道あきやらし本の使　倭丸
八ッ橋ハ杜若指授よ二章橋　古香
絹上手の舞も羽を伸ばし成人　梅香
紫をよめけらしりしてでは何かしらん　梅下
旧録ハ小香ロ有るいハ大香も　竹梅

淀川にふられた悪婆探しなり　山積

積知恵しく見と歎く残らずけ　千蝶

突させる丹へ突と咲く翁かり　よ花

雪氷つめしいふくいむ事ぬ春　之松

喜秋て周会すかしさ望一　和柾

粟穀よいふしむ扇の女房も　影里

川々おいまうれの側よかれ菊　ヤマキ

然若い勝るかふしの母を解　根人

いきさい目のさらいふる担て初　一河

柳六十丁四

礦の作りし村の神まゝし　其笠

無い下よ人むしい鶏へ射　器水

前も磨ふ葉さいむ事ぬ世　之松

縁りの側るいなしる旗り　桃香

六夜の丸人か雲つきと丹いる　仝

二百目か出るし妹の遠出　千花

武田の仁けり中く大きれ　柳条

出しけよく仁王見か知ろり蔭　其流

一

大紅さ事をして不さい不　柳雨

抓犬と見ようら柳よ化やら　百華

胡蝶ぞ夢のうくよ見よかな哉　友松

侘なり一使とつきふきしまる哉　器水

人形とて入るゝ巨雄の猫中　市宮

言隠の家陌いるひへの子形　雪下

芽折と咲行小する寝も　屋花

まゐ丸来と持くる播丸芽る　雪下

採人に待く陸やら人と待くもとき　儀丸

知ふ滝も鏡白に出ま彩鏡　器水

三ヶ下楽評

花の時ら里い花今待去し　若蝶

結源ろ橋と吉葉うけ初　都水

春顔を茶摘も茶経すさく　峰舟

惜らしもふ報ふめう人のも　笠下

結梅と先きよ言るい小松哉　やこき

涼しのし此名よ持る紫節　錢丸

本い右よ武名と持ス播川　彩右

義邑の吉よ山結の交ろ大結す　玉寺

石塔も門側いちゝぬ忠臣さ
大夫の林こゝ所のを信
濃塗師と式部の門のかゝ
るさしれ側ゝ六字名れ新せ今
日ゝよりゝふるる者りる
酒入しぬまいおるふと禁中
れ者の中を家成の教し
武せを御ゝりゝれ家　山塔
堂れ塔ゝ拾り動ゝゝし

新六十一ノ八

十りり
分行ゝ世のゝ多ゝ藤ゝ耶夫人
功必名ゝゝ名ゝ言れ逆業し
之笠山帝ゝ流ゝり辞世し
奥中ゝまえ申る　拝ら
位ゝゝゝ兵乙位將と舟いおし
七せと舟いほすゝ流云し
玉髪を須ゝゝゝゝ二ゝ番
塔四郎もこゝを拝ゝ為れた
ゝゝ世と拾ゝ荒りゝ世ゝ多

為人　和樂
西山　恵鳥
青蓮　松里
古今　水沼
笠下　木賀
有章　松浦
今牛　梅香
ヤマキ　保川
梅香　梅庵

寒巖ゝる一〻鞍ゝ如十年
ゝ〻詩ゝい天倫雲の座〻きめ
苔板の梯と彼岸よ毋いまき
惜ゝ多語海〻〻望れむゝ板
ゝむさのゝ芭蕉ゝ茶釜賢
苦挽ゝふ〻〻ゝ〻のゝ孔雀ゝ
徒図い門〻白川夜舟と
笈掛いゝ〻〻ゝ云初柿ゝ〻き
姑孔ゝ姥行脚と待〻ゝ

京栗
福松
千里
三松
数売
柳よ
幡白
計人
中布

華〻姑〻ゝ〻ゝ〻ゝ人風流さ
仏門よ之年入〻〻　又姑
ゝ云よ仏姑女よ苦薩し
厳山の竜伝あよゝ〻ゝ
萩寺へ〻〻ゝ〻ゝ〻の　あ信
性い云ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
門義ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
人の已ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
鶏竜ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ

山茶
雨夕
和文
古今
三雲
雨夕
雲弱
数売
万年

文亞〳〵仏胴〳〵ぐさと　する
仏那とふいとよりて　ひとの門
屋素〳〵ふすま〳〵入後の村と
精を日後のうゝかいきうい義
今のふゝ河〳〵日よさいかへこ河の
乳を命ゝ〳〵　最いしやかゝ〳〵
いう乗ゝ歳〳〵　概経　光上
下ゝ吹　我ゝ歳ゝふきゝ〳〵かゝらし
桂ゝも比秋ゝつゝ　比世ゝい

和文
一竜
雨夕
和桂
幡白
糸栄
お海
里男
大原

人ゝ報ゝ世ゝつゝかいゝや　和桂
仲係ゝ月ゝ流ゝ日ゝ医ゝ　万年
竜の目ゝ河辛ゝ流ゝ　福芸
ゝ月年　竜目ゝ男ゝ　梅与
ゝ穴ゝ　ゝ年　穴ゝ入　雨都
服の赤縁ゝ　口流ゝ　全
和桂山ゝ　ゝ　和桂
ゝやゝの実ゝ　ゝ　万年
流ゝ室海ゝ　室間

[illegible]の石ぶみの中に、里雪
[illegible]酒好
[illegible]本賀
[illegible]而且
[illegible]多花
[illegible]筆下
[illegible]板人
[illegible]筆下
[illegible]川柳作

[illegible]
[illegible]青春
[illegible]而且
[illegible]和文
[illegible]筆下
[illegible]類売
[illegible]柳多
[illegible]有幸
[illegible]年下
[illegible]循去

比叡山に登る軍は去いまり、
如意ヶ嶽より山の法も呼ぶ声
和尚の長吏を以て元の如く奏し
二万三千人の僧の命を
助おはしまを乗り極楽を
願ひぬる佛 大慈大悲
樓舟より自侵(クハシン)寒風東西
香奠の面文 渦巻川
水雲もうかぶ 行ク滝

里雪
一ノ夕
牛住
花町
酒好
香奠
里松
和久
加文

ほとゝぎす只一声 ほのかに
置信い九 敬天 ま 彩止り
、和桂
ちかく 打ちもらし南を向ケ、ミクト
且れる所 公義 採れ 次一ある
鳴も天 海 見 海 を 雲
就 ま 一 翁 海 新 仁 云
陳 川 以 時 の 人 の 法 男
行 ま 平 の 人 れ 南 ま
ほれ 本 の 法 ま 家 れ ま ま

和桂
城九
半下
長明

そつ母ハ九十まで婿のさかりかな　示米

菜をきざむ音もおさまり笹切　一イ夕

恵りかしかなしく身にしたる哉　積よ

又は家ハ何も出来れ縁組をおね、　山茶

常念仏宗れするよ狂言寺　巾布

是さへ寺へおちてく手まさし　扳人

糸緑ありし枕をとりて白さゝる　徐声

看経の柳重もよむ無眼内　新頂

臭れ国よ調しうへる家中れ　雨柳

一家中へ金をとめるとゆかしく夜かな　竹亀

和尚ハよそのつかひ借そゆへん下の人　辻林

先祖ハゑらかりけるお行ハ嫁くし　花示

係沈めて家へ探りつゝありひ　和文

出月と女六組ハおりつる、　嵐々

去病ハ一角よりしも毒を消　三京

東市をよろしく京都から武者　牛住

婿をとりやらし堂家る講家る　雨且

昼の縁も娘が世しくして其家よ嫁、　可笑

こいれ揩　麻上下らく　胡蝶　　香雲
孫まつと拵ゆふは珠数とまう　　里梅
精どりのかおしきいえりぬで　　よれ
亡き人を射へつしして大きな花し　　一亀
去言も囲く　むれ　秘密こ　　万仁
到来す女房たゆくいてくい　　ミクト
仏しの口をいせやれ　冷田鮨　　楼好
出るらも一つ呼よ仁王　従へ帰る　　ミクト
情ハ昔とさき[illegible]の日へき[illegible]　　雨夕

桃つくいの月士　旋場く　ホーし合　　柳水
念仏ど[illegible]ふ人の[illegible]　　雨山
善への[illegible]くら沼を　桶への　　雨旦
ホ門く治電畜生と　孩をと　　杜蝶
乙人する着衣　長唄の　集よへ　　羊下
死せ命[illegible]殺いしやぬしら　　示楽
精とを日護の下女へきう[illegible]　　和桂
網[illegible]の初[illegible]枝重れ　礼よ立　　嵐兄
いり菜中[illegible]概経　花上う　　正陶

[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　不夕
戒名を[illegible]　　和桂
[illegible]　　和文
[illegible]　　仝
[illegible]　　[illegible]門
[illegible]　　仝

孤声評

[illegible]香の感い[illegible]ぬ　紫郎　三松

[illegible]

三人[illegible]　出数　長生
[illegible]門の松[illegible]も[illegible]る　青袁
[illegible]　　晴道
[illegible]　　山茶
三人の文様　[illegible]　青袁
[illegible]　　杜楳
[illegible]　　黄袁
[illegible]　　王下
[illegible]　　[illegible]

月をおくりかのうちの人のむ
酒入しぬまいおまこと難く中
傘の和ハとてぬ　智恵院
をとりけるものいかうをのとき
初歌迎をとりハ世ハの延せ
六月雨　日本時へ　後鳥羽
歌をとり賦ろ行くに同ろをろ
歌の集　可笑
歌の集　里梅
関る井入おとよ　ものを

笠下
有幸
こと下
青蓮
長弱
和集
歌為

出山井歌迎ハ月八日をもひ
侍るかしもいかやに風ハ立なり
之人ハ文侍の和ろ侍ろと
彼岸中人をろ金堂歌せ十
ろをよ十七文字のよ句ま
深ろ比丘およる宗所
金銭を乗ろをもよろ
世ハ宮しとを人の日をを人ハ
本をしの風雅なるをろ人ま

田舞
梅合
ま表
雨且
梅下
幾九
雪冊
雨夕
和夕

大まくらゐ傘を新へ召　和文

織あとしる中ねハ姫と云参　菅嚢

北條北まくら悪らしの中でやらし　青雲

孫おく要は丁年を介ハ莚く　素松

はな喪月ふハとゝる　内所占　什人

訓翁の后おりの汁さし　里貞

読の山まく影門とメるて　芝水

七生まる丹ハ淀せるく浣宗し　梅路

かまの吹し銭に存まてまてかまで　里雪

おもしろすみ十れとのわしわけわし　梅如

月の影と一本へしとちぬお原　鶯丹

鬼まやしかおくらわりくとね　儀子

経汁ハきひしむ丹の形くて　夕枕

南をしつく二字ハ紅れ市字まで　一河

秋日みきまつまる人のころゝ老　計人

冷れ舟の路く日いさらゐへこれれ　嚼白

更の如し夕日れ四時と朔日　嵩　天徳

重能のとしへ　持女の月要て　其笑

めてたき人ハ六字れ出一門　よ松

竹ノ丸月へ乞ふて寂しき　吉秀

井筒ノ涼ハ中ニハきハ門ハ寸　嬉白

うかさよのもせ床を画て葉茶かな　数亮

雪ハ猶気仰ぐ吉ゑの株数を招　山翁

正宗法人へ入て現世丸狀を振ハ　数亮

文字んハくとメ一休ハ開き　和文

香もみも似の好なるしまふ　青雲

寒菊ノ香る一線るめ十年　示字

名春のまれてもしみ竹し　雨夕

君れて菊揃ふ入たる向しき翁　笠下

夜るも持も菜つる　是入名　全

小さな揃ろ舟小なれ月よ　水　湖径

花園八門くら白門　夜舟て　嬉白

いせうも秋くおしつゝいなら床　雨旦

売れ声髪月とあくいは若床　梅秀

若のえるいのボしる庵の数まし　雨夕

暗ても水ゑく戸板も角力衣　万歳

丞川ハ年明ちの月とろ　蛙丘
年寄れ格をわるとてあえ　里松
乙乙ちりりと比羨を流る　福寿
茂林るハもれくしふ寺守て　柳水
流会分らぐ廣様し取しう　やてき
一つ家中参とぬるとふぬ　亀亮

文化八未年八月十七日開き
催主
有幸
菱蔵

評六十一　十九

松蝶評

游寺りの数よ乗れ所ね　雲下
白殿の所代ろと行なし貢ぬ　千虎
付の書し播士の間ら通通　鶴亮
所無も出生房の表て　旗高
諸家山林藤う入　和家れ丘　山笑
天龍ハし衛の名ともケコニぬ　とクト
二荒ヒもとしそ出雨方日れ克　雨且
至ての庭ハ沈網の澤中　全

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 千尾
[illegible] 山水
[illegible] 水治
[illegible] 三松
[illegible] 仝
[illegible] 杜蝶
[illegible] 香夏
[illegible] 仝
[illegible] 酒好

[illegible] 有年
[illegible] 香夏
[illegible] 古香
[illegible] 三松
[illegible] 杜蝶
[illegible] 星隈
[illegible] 立連
[illegible] 星松

毘年一編をなすこの　初と　杜樵
化の主を著し著作を門生、雨斯
雨主へ　　風車　　海々
長後のよりなすに廻れ小　　飄母
係後いひ雲破し人い雲ケ岡　　赤夕
酒の青よ酒のひと蔵ひ　　三松
雲を深し中に宝塔ひ　　雨且
を成長中ひ人へ生長　　青蓋
作村のを示　とあり人　　雨柳

而は中に　　青人
ひ　　人
　　人
　　人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雨且
杜蝶
か連
志夕
雨析
里松
真流
橋ま
甚釜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年代実録の書い仕廻、る拙
者慰いたかあ〳〵藏〳〵女室と、雨夕
ぱつと九つてもと始終〳〵ある
冬代月原付〳〵法つるふふふ人
ふつ神よりつつ隙〳〵抑〳〵ら
中国〳〵之ア〳〵も　ナこ雨、
変ぬ中よ代ち〳〵〳〵〳〵拙ふ
口伝つあるは家伝種〳〵指て完
弱人を明〳〵部い人拙や

雨且　琴乗
雨且　行好
雨且　之系
雨且　妻弱

乙保の巻〳〵保尤〳〵吟ひ〳〵自代
家代〳〵ふ拙か〳〵し打事
思之毎よ上使の下かし元亥　義
風風と実家〳〵長よ鈴〳〵実
抑保する人を雨代家〳〵吟浦
伯義奥も拙〳〵義も〳〵
つも形の〳〵中代ち〳〵陽法
首出〳〵ふ〳〵ふ〳〵自ふの出之
家〳〵代迷也加〳〵ふ（反〳〵

雨且　年代
雨且　拙人
雨且　葉千
雨且　ち拙
雨且　義九
雨且　年卜

梅下
里仙
有幸
山元
杜陵
抗都
宣周
雪下

亭〻評

音信絶て三日い月も　う姫　雨且
東〻こゝろ〻浩〻目出もんな　義德
ちつとよ所代〻太敵のとて〻帝　燕子
治定れ其代よ正月れ所代を変　年下
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　柳水
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　接声
繁昌さ代名のよ　ちないおし　接子
姫大〻清〻岩戸七景ら　郭人

文れ〻ケ月冥加のなるを所嘗服　一イ夕
百六ケ〻ゝ出産の〻　去解　加丈
去月のなりて年始のなるゝ　雨別
官ゝ〻ゝ〻ゝ〻腐の茶れ〻ケ月〻　柳姫
ゝ〻ゝ代ゝ分ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ義　五連
入王れ乱民者や　物云すり　仝
所〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　志夕
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　雨柳
門書ゝ後義ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ第ゝ解　抵高

[illegible]

志度
杜鵑
[illegible]
梅桃
山笑
梅桃
志度
海鹿
器水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

里梅
寒糸
赤楽
梅合
沖九
雪下
器水
香貝
赤猿

里松
アイメ
屏々
里梅
屏々
竹梅
赤楽

年下
有章
里梅
梅麿
有章
田文
地内
近木
西目

立連
糸柴
忠懐
釜下
板人
個好
梅麿
山猫
立連

大海日はしるのへ　江中　竜来
西門〳〵のう民まつ〳〵ろ　金松
多小帆をとけ　宝舟〳〵　ていた
とすりよい君子代の姫初　笠下

孔声評

作者例　六面紋〳〵　山退出　和里
姿見ふ〳〵る前れ天下　一　留人
大丈夫作るもこゝる　作〳〵　美徳
古人の作枝のもきい唐〳〵る　文雲

折六ニ一ノ世五

神宮和へ詣〳〵春のけしの作品　山矣
産物〳〵ふ年れ世〳〵ふ年下　留人
世常いこれ作〳〵る　山安、末青
まゝ〳〵とふ〳〵のこゝ　雨夕
書〳〵ふ一朝青い　之七　山矣
度中れ枝つ面つる　山嵐功　青森
恵ノを拂ふ雲水の年　有　里板
世物〳〵表を作〳〵る福寿竹　忱内
門表れ紙〳〵枝〳〵る　郁七　山矣

[illegible]　宝丹　水活
[illegible]　猿子
[illegible]　雨且
[illegible]　雨夕
[illegible]　小梶
[illegible]　極樂
[illegible]　猿声
[illegible]　赤弱
[illegible]　望下

御六十八

[illegible]　龜果
[illegible]　山矣
[illegible]　海丹
[illegible]　雨胡
[illegible]　杜鵑
[illegible]　雨且
[illegible]　休月
[illegible]　雪丹

百歳の方かゝ笑よ言れ　姫　里松
年ゝ絶〳〵おく〳〵へ出〳〵ふる泉山　庭苑
みゝうん筋ゝ下〳〵ゝ中村　世外
ゝゝ年ゝけゝ云ゝ変世よ人　山橋
ゝ〳〵の年ゝ也ゝ馬出ゝ　中丸
百日小笠かゝ出ゝ作ゝ云ゝ　藤川
神酒〳〵寺れ云ゝ年ゝ笑イ　数里
イ年ゝ命ゝ命ゝて命いゝこかゝ　而夕
年ゝ年ゝ絶ゝ絶ゝ明命ゝゝ年ゝ　和文

神六十二世

胴部の年ゝと大き赤月ゝゝ　数里
永器用なゝゝよゝ作ゝ屋ゝ絶ゝ　ゝ花
出ゝ宛ゝ命ゝ絶ゝ作ゝ〳〵ゝ絶ゝ　板人
門ゝ言ゝ月ゝ〳〵ゝ言ゝ宛ゝ　木石
ゝゝ宛ゝ〳〵ゝ絶ゝ〳〵ゝ月ゝ　柳水
ゝゝゝゝ〳〵ゝ〳〵ゝ出ゝ年ゝ居ゝ　山矢
ゝ不腹ゝ医ゝゝゝ年ゝ言ゝ　庭苑
言ゝ〳〵ゝ邪ゝ入ゝ出ゝ遠ゝ　板枝
言ゝ絶ゝ年ゝ〳〵ゝ絶ゝ　未弱

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

5

昭和三年一月
3 14

[illegible]

[illegible]

[illegible]